
2017年3月期決算(IFRS)説明会資料

—中期経営戦略進捗状況/2018年3月期業績予想—

2017/4/26

株式会社 日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 宮崎 正啓

執行役専務 宇野 俊一

2017年3月期決算(IFRS)説明会資料 —中期経営戦略進捗状況/2018年3月期業績予想—

1. 2017年3月期業績ハイライト
2. 中期経営戦略進捗状況
3. 2018年3月期業績予想
4. セグメント別事業戦略
5. まとめ
6. 補足資料

1. 2017年3月期業績ハイライト

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は、前回予想(2017年1月公表値)

2017年3月期業績(ハイライト)

(億円)	17/3実績	前期比		前回予想比(e)	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上収益	6,445	+156	+2%	+145	+2%
調整後営業利益*1	573	+102	+22%	+48	+9%
EBIT*2	536	+54	+11%	+18	+4%
税引前利益	539	+54	+11%	+19	+4%
当期利益	402	+42	+12%	+12	+3%
一株利益	292円08銭	+30円40銭		+8円50銭	
一株配当	80円00銭	+15円00銭		+10円00銭	
ROE	11.9%	+0.3%		+0.3%	
FCF	+316	+70		+76	

・実績レート: 1USD=108円、1EUR=119円

*1 調整後営業利益: 売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費の額を減算して算出した指標

*2 EBIT(Earnings Before Interest and Taxes): 税引前利益から受取利息及び支払利息を除外した数値

2017年3月期業績(セグメント別)

(億円)	17/3 実績		16/3 実績		前期比		17/3 予想 ^(e)	
	売上 収益	EBIT	売上 収益	EBIT	売上 収益	EBIT	売上 収益	EBIT
科学・医用 システム	1,861	271	1,770	266	+5%	+5	1,860	271
電子デバイス システム	1,245	270	1,027	153	+21%	+117	1,243	265
産業 システム	916	21	985	11	△7%	+10	908	16
先端産業 部材	2,502	23	2,568	35	△3%	△12	2,459	22
全社合計	6,445	536	6,290	482	+2%	+54	6,300	518

* 全社合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれています。

* 2016年3月期のEBITには、確定給付企業年金制度の一部を確定拠出年金制度へ移行した影響額(38億円)を含んでいます。

売上収益・EBIT 偏差説明(2016年3月期比較)

売上収益 (6,290億円 → 6,445億円 +156億円)

- 科学・医用システム： 医用分析装置の大口案件増加および中国市場向け販売増により91億円増収
- 電子デバイスシステム： 顧客の堅調な次世代先端プロセス投資およびメモリー量産投資により、販売が好調に推移し218億円増収
- 先端産業部材： 素材価格低迷の影響とスマートフォン関連部材の販売減により66億円減収

EBIT (482億円 → 536億円 +54億円)

- 電子デバイスシステム： 売上収益と同様の理由により117億円増益
- 前年同期のEBITには確定給付企業年金制度の一部を確定拠出年金制度へ移行した影響額(38億円)を含む

2017年3月期業績(財政状態計算書[要約])

2017年3月末 (億円)

		16/3末比			16/3末比	
流動資産		4,732	+614	流動負債	1,987	+310
現金および現金同等物	1,898	+204	営業債務	1,213	+114	
営業債権	1,466	+120	その他	774	+196	
棚卸資産	1,009	+75	非流動負債	318	△104	
その他	360	+215	退職給付に係る負債	261	△70	
非流動資産	1,146	△47	その他	57	△35	
有形固定資産	708	+1	資本	3,572	+362	
無形資産	79	△24	親会社株主持分	3,569	+361	
その他	359	△23	非支配持分	3	+0	
資産合計	5,878	+567	負債および資本合計	5,878	+567	

・一株当たり親会社株主持分 2,595円18銭(16/3末比 +262円68銭)

・親会社株主持分比率:60.7%

2017年3月期業績(キャッシュ・フロー計算書〔要約〕)

(億円)	17/3		17/3
営業活動に関するキャッシュ・フロー	+605	財務活動に関するキャッシュ・フロー	△105
当期利益	+402	配当金の支払	△103
減価償却費	+105	その他	△1
運転資金	△31	換算差額	△7
法人所得税支払および還付	△36		
その他	+165		
投資活動に関するキャッシュ・フロー	△289		
有価証券および その他の金融資産の取得・売却	+75		
有形固定資産および 無形資産の取得・売却	△112		
その他	△252		
フリー・キャッシュ・フロー	+316		
			17/3
		現金および現金同等物	
		期首残高	1,694
		増減額	+204
		期末残高	1,898

2. 中期経営戦略進捗状況

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は、前回予想(2016年10月公表値)

基本方針

“変える勇氣・変わる勇氣を持って進む”

さらなるお客様志向への変革 個別化されたニーズにきめ細かく応え、高度な専門性でソリューションを提供

自律分散型組織への変革 全体最適の視点で、現場の社員が自ら考え、判断、行動する意識改革を推進

中期経営方針

主力事業で継続的に収益を確保しつつ、次世代につながるリソース増強・投資を推進

~FY15
 ・震災復興(建屋整備他)
 ・事業構造改革(有機EL・実装・後工程)

~FY18
 ・2020年に向けた成長サイクルの形成
 (R&D・IT/サービス・インオーガニック投資)

成長戦略実現に向け、マネジメントを「Instruments」と「Materials」に区分

従来:セグメントごとのマネジメント

ビジネスモデルの違いを勘案し
 マネジメントを「Instruments」と「Materials」に区分
 提供する価値およびターゲットを設定



KPI 目標達成に向けて成長戦略を策定・実行

売上
収益

市場の伸びを上回る成長の実現

事業ごとの売上収益CAGR > 市場成長率

収益性

Instruments

EBITマージン率 10%以上を維持

Materials

EBIT絶対額 50億円以上を実現(2018年度)

サービス
比率

EBITに占めるサービス事業*の割合:50%以上を維持

投資戦略 成長戦略実現に向けて積極的に投資を実行 (2016~2018年度累計)

投資規模

研究
開発

800億円

バイオ・メディカル事業を中心に増額(2013~15年度比 30%増)

設備
投資

400億円

- 事業を支える製造能力の拡充と生産技術力の強化
- デモ設備等の拡張による顧客とのコラボレーションの深化

事業
投資

300億円

バイオ・ヘルスケア

社会・産業
インフラ



手持ち資金活用による
さらなる事業投資

株主還元 配当性向30%をめざし、安定配当を維持

*サービス事業: 製品保守サービス、ITソリューション、商事サービス等

収益性

Instruments

EBITマージン率10%以上を維持

17/3 実績

17/3 予想(e)

16/3 実績

13%

12%

11%

科学・医用システムの医用分析装置、電子デバイスシステムのプロセス製造装置・評価装置ともに販売が好調に推移し、10%以上を維持

Materials

EBIT絶対額50億円以上を実現(2018年度)

17/3 実績

17/3 予想(e)

16/3 実績

23億円

22億円

35億円

素材価格低迷の影響とスマートフォン関連部材の販売減により前期比で減益となるも前回予想(e)を達成

サービス比率

EBITに占めるサービス事業の割合50%以上を維持

17/3 実績

17/3 予想(e)

16/3 実績

57%

61%

59%

自社製品の販売増により比率は低下するも、50%以上を維持

3. 2018年3月期業績予想

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。

2018年3月期業績予想(ハイライト)

(億円)	18/3予想	17/3実績	前期比	
			増減額	増減率
売上収益	6,800	6,445	+355	+6%
調整後営業利益*1	460	573	△113	△20%
EBIT*2	460	536	△76	△14%
税引前利益	460	539	△79	△15%
当期利益	350	402	△52	△13%
一株利益	254円49銭	292円08銭	△37円59銭	
一株配当	75円00銭	80円00銭	△5円00銭	
ROE	9.5%	11.9%		△2.4%
FCF	+30	+316		△286

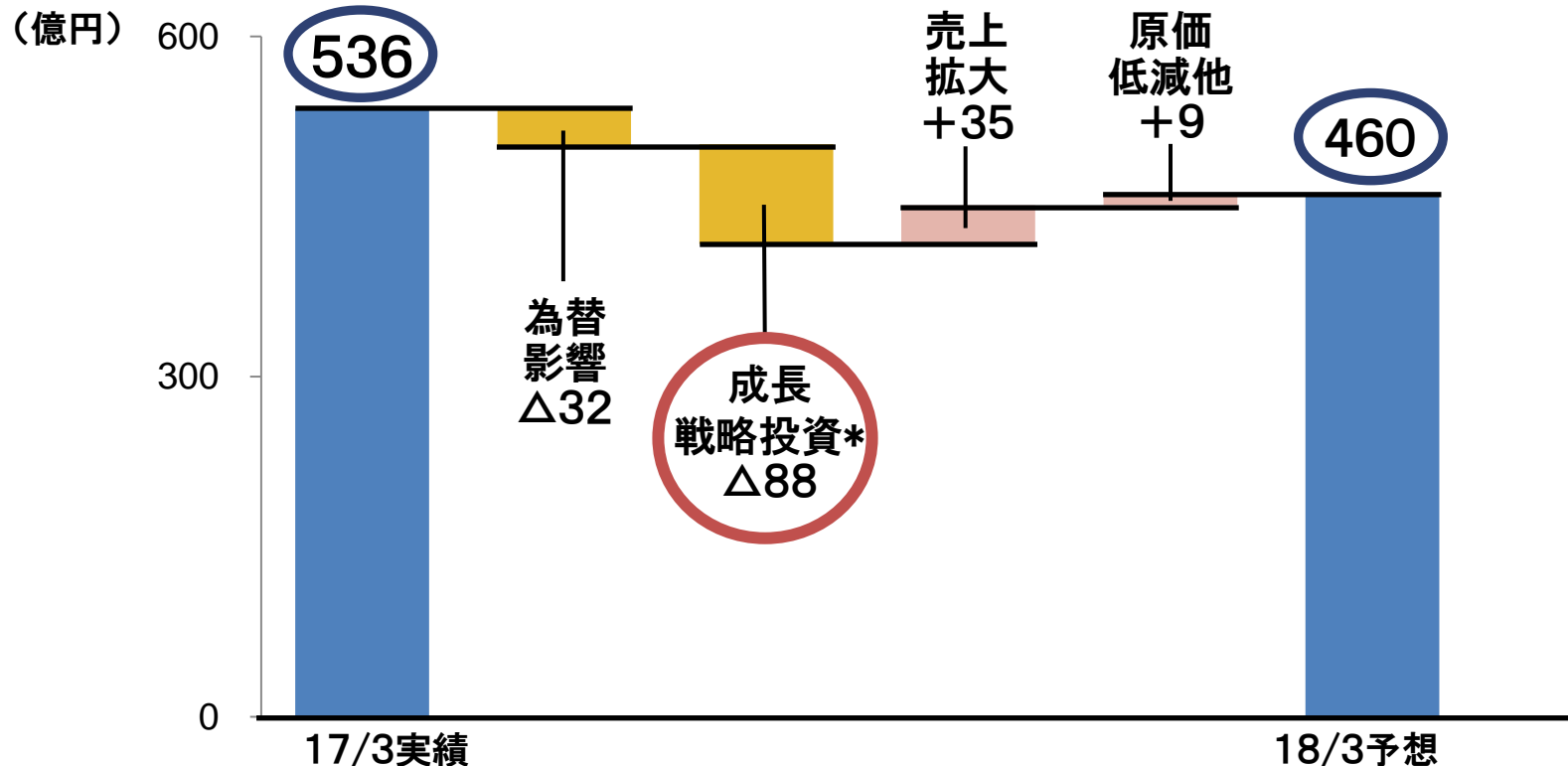
・想定レート: 1USD=105円、1EUR=110円

*1 調整後営業利益: 売上収益から売上原価ならびに販売費および一般管理費の額を減算して算出した指標

*2 EBIT(Earnings Before Interest and Taxes): 税引前利益から受取利息および支払利息を除外した数値

2020年に向けた成長サイクルを形成する成長戦略投資を推進

- 製品開発強化のための研究開発投資 42億円
- 製造能力・生産技術力の強化、顧客との連携強化に向けた設備投資 25億円
- グローバル体制強化への人財投資 20億円



*成長戦略投資:研究開発費、減価償却費、海外人件費

	セグメント	前期比	具体的な取り組み内容
研究 開発費	科学・医用 システム	+16億円	<ul style="list-style-type: none"> ・事業拡大に向けた製品ラインアップ拡充 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 新規事業: 第2世代DNAシーケンサ、遺伝子検査装置 等 ▶ 既存事業: 医用分析装置他、次期モデル開発
	電子デバイス システム	+20億円	<ul style="list-style-type: none"> ・サーバー用途拡大・フラッシュメモリ需要増、IoT市場の成長 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 3D-NAND向け製品の強化、非先端半導体向け製品の強化
減価 償却費	科学・医用 システム	+15億円	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト競争力のある生産体制確立 ▶ 製造拠点の生産能力拡大 ・グローバル対応力強化 ▶ 海外デモラボ・研究開発拠点の拡充
	電子デバイス システム	+10億円	<ul style="list-style-type: none"> ・アーリーコラボレーションのオンサイト開発体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 開発機、顧客デモ機等設備投資の増強
海外 人件費	科学・医用 システム	+7億円	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化推進に向けた人財リソース増強 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「日立診断産品(上海)」設立、スウェーデン・Spectral Solution社の子会社化における販売・サービス体制強化
	電子デバイス システム	+8億円	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな顧客ニーズに対応する開発体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 海外エンジニアリングサイト強化のための開発者増強

4. セグメント別事業戦略

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は、今回予想(2017年4月公表値)

事業ビジョン

全ての体外診断市場におけるグローバルプレーヤーになる

市場環境

基本戦略と経営課題

【生化学・免疫検査市場(装置・試薬合計)】

- 成熟市場 (2015~2018年CAGR)
 - ・生化学検査 2% ・免疫検査 5%
- 中国・新興国は依然成長を維持(特に免疫装置)するも、競争環境は激化
- 試薬・装置への投資は抑制傾向。
医療費削減圧力により市場価格が低下

【遺伝子・細菌検査市場(装置・試薬合計)】

- 安定成長市場 (2015~2018年CAGR)
 - ・遺伝子検査 10% ・細菌検査 7%
- 遺伝子研究・診断分野
CE^{*1}シーケンサのDNA鑑定他の解析用途が拡大。第2世代(NGS)は臨床研究(癌パネル等)を中心に2桁成長

既存事業の拡大とさらなる柱事業の創出

- 既存事業・新規事業への重点投資
 - ・「日立ハイテック九州」の建屋拡張
→ 製品開発力・価格競争力の強化
 - ・新会社「日立診断産品(上海)」を中心に事業展開
→ 中国国産品優遇施策や試薬需要へ対応
- 成長に向けたさらなる投資の継続
 - ・事業領域拡大へのM&A/コラボレーションの推進

■ 既存事業規模の維持(台数シェアの維持拡大)

- ・円高による為替影響
- ・市場価格低下
- ・中国市場の需要増

新製品の継続投入
SCB^{*2}の深化

トップシェア
維持

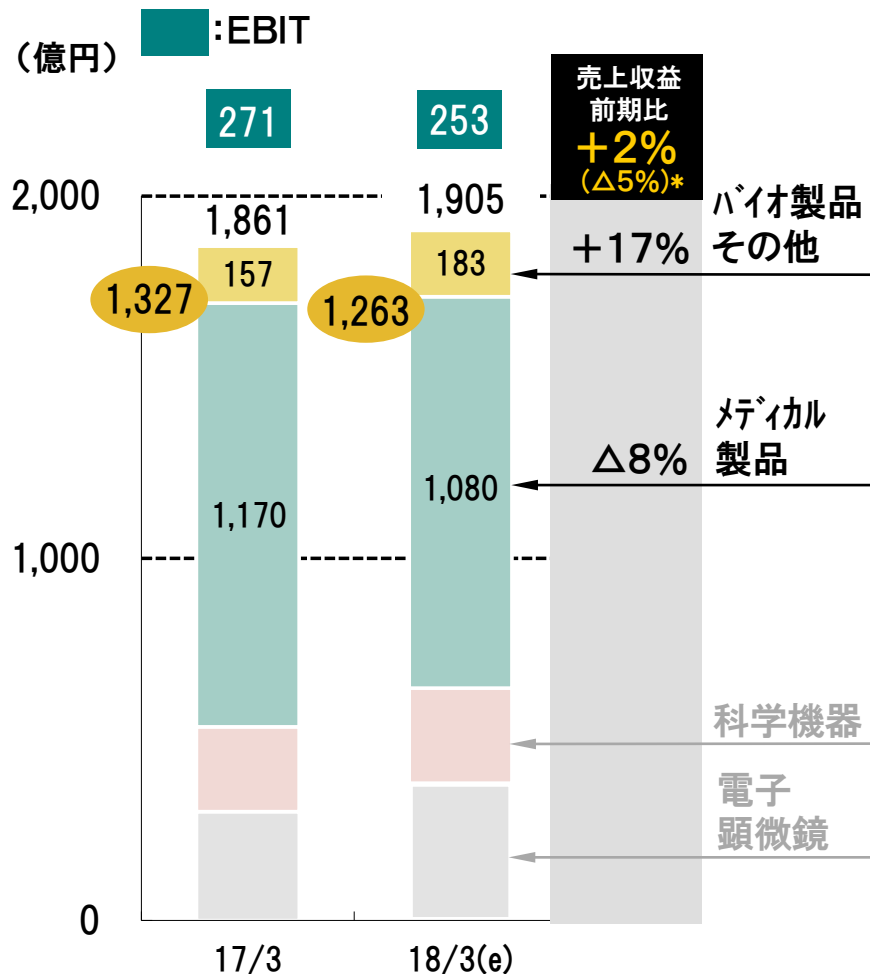
■ 新成長市場での取り組み強化

- ・CEシーケンサのDNA鑑定用途他への対応強化
- ・独キアゲン社との共同開発事業推進等、新規事業立ち上げ

*1 CE(Capillary Electrophoresis):キャピラリー電気泳動式

*2 SCB(System Collaboration Business):強い試薬会社とのコラボレーションにより最高のシステム(装置+試薬)を提供する日立ハイテックのビジネスモデル

売上収益・EBITの推移



*バイオ・メディカル事業の前期比

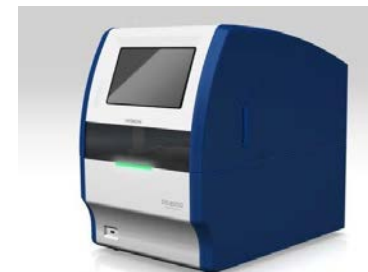
2017年度の具体的な取り組み

- 新製品の販売拡大による業績確保**
 - ・新高速免疫分析装置「cobas e801」のW/Wでの販売立ち上げ
 - ・新大形生化学分析装置「LABOSPECT 008 α」の拡販による日本国内でのシェア拡大
- 中国試薬メーカーとの協業**
 中国国産試薬を活用したソリューション提供による事業拡大
- 既存事業の強化および新成長市場進出に向けた積極的な技術開発投資**
- 成長市場における新規事業の早期立ち上げ**
 - ・米プロメガ社との小型CEシーケンサのコラボレーションビジネスの立ち上げ推進と日本向け販売開始
 - ・迅速細菌検査システム「Verigene」用「多項目同時遺伝子検査試薬」の日本での販売拡大



検査業務の
効率向上を提供

日立自動分析装置
「LABOSPECT 008 α」



小型CEシーケンサ
(完成イメージ)

事業ビジョン

科学機器のグローバルメジャープレーヤーをめざす

市場環境

【電子顕微鏡】

- 市場成長率 2~3% (2015~2018年CAGR)
地域別市場構成比(2015年度):
日本17%、欧州22%、米州15%、中国22%、アジア他24%
- 日本の官公庁需要および欧州は減速、中国・アジアは電子デバイス関連需要が活発
- 環境・新エネルギー分野で多目的解析/分析・反応過程観察ニーズが増加
- 高機能材料から生体サンプルまで、内部構造の三次元解析ニーズが拡大

【科学機器】

- 市場成長率 2~3% (2015~2018年CAGR)
国内市場は官公庁需要減によりほぼ横ばい
- ライフサイエンス、環境・新エネルギー、新材料等の最先端分野で、高精度でスループットの高い専用機の需要が拡大

基本戦略と経営課題

グローバル対応強化とソリューション提供

- グローバル販売/マーケティング機能の強化
・W/Wでの販売体制の強化・再整備とWEBコンテンツの充実
- ソリューション型ビジネスへのシフト
・多目的解析/分析対応装置のラインアップ強化
・分野別アプリケーション・高付加価値専用機の開発によるソリューションの提供
- 成長のためのさらなる投資推進(製品群拡充他)
- グローバルプレゼンスの強化
・電子顕微鏡・科学機器のW/Wでの事業拡大と認知度向上
- 市場トレンドへの対応による競争力強化

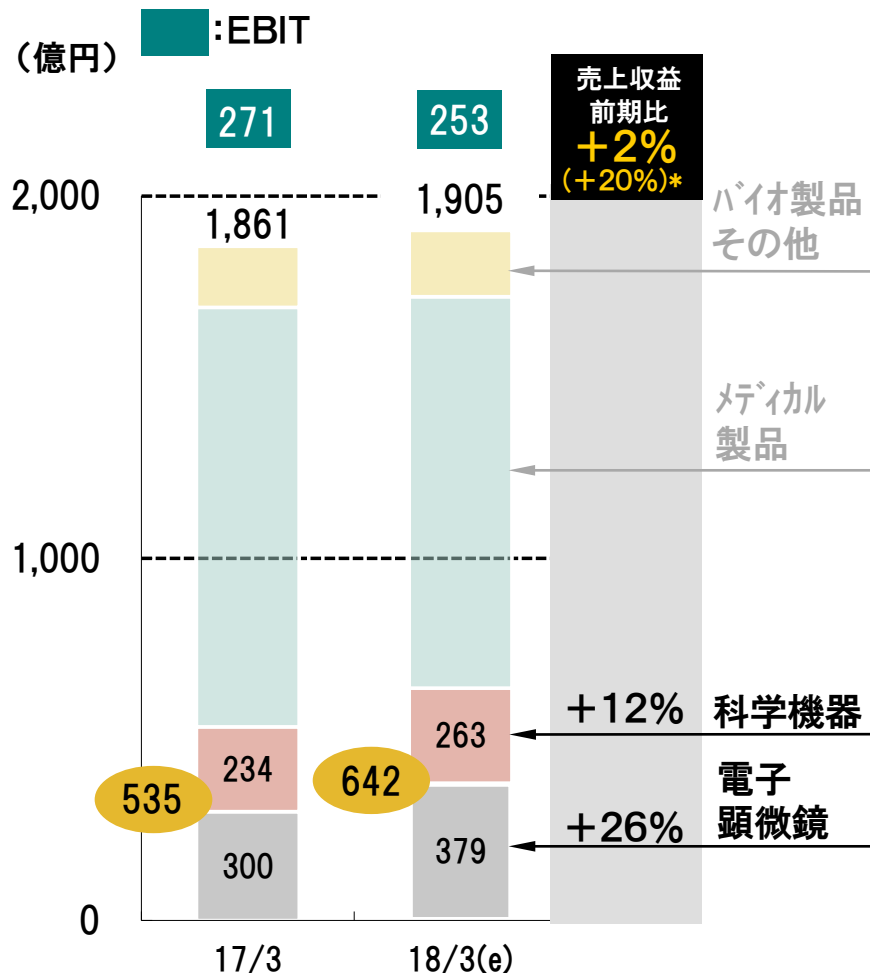
多目的解析/分析
ニーズへの対応

分野別ソリューション
の提供

安全・安心な社会の実現
に向けた製品の提供

非破壊・その場迅速
分析事業への参入

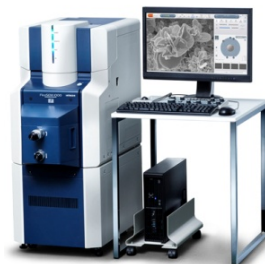
売上収益・EBITの推移



* 科学システム事業の前期比

2017年度の具体的な取り組み

- **グローバル販売体制/マーケティング機能の強化**
 - ・アプリケーションラボの新設(米国・英国・中国)による販売拡大、研究・新事業の開発促進
- **高付加価値専用機の開発・販売**
 - ・RoHS II 対応フタル酸臭化物検査装置
 - ・LiB・燃料電池用異物検査装置
 - ・食品検査装置(蛍光指紋他)
 - ・光-電子相関顕微鏡法(CLEM*)用システム
 - ・新材料/半導体/バイオ分野等の伸長市場向けのソリューションの開発



走査電子顕微鏡「FlexSEM 1000」

- ・小型・軽量化
- ・低加速領域の分解能向上
- ・高画質観察



LiB異物解析装置「EA8000」

- ・微小金属異物を高速検出しその元素を同定

* CLEM(Correlative light and electron Microscopy):
光学顕微鏡電子顕微鏡のそれぞれを相関して観察する顕微鏡法

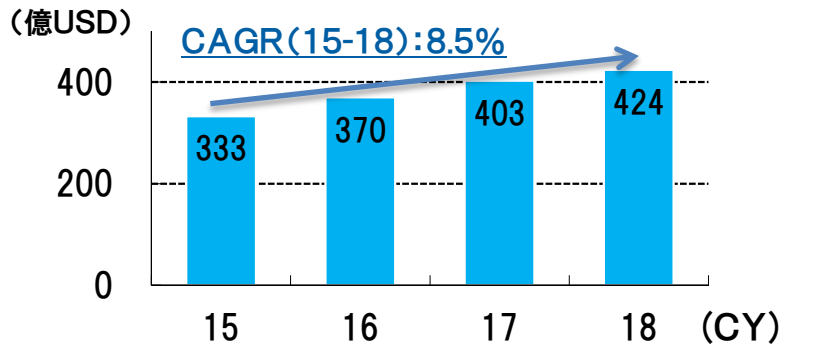
事業ビジョン

新たな価値をお客様と共に追求し、創造する

市場環境

半導体製造装置市場（前工程*）

*前工程装置にはWLP*1装置を含む



成長率

(出所) Gartner(2017年4月)データに基づき当社作成

- ・2016年4月時予想: 4.1%
- ⇒2017年4月時予想: 8.5%に上方修正
- ・当社実績:
2016年度売上収益は前年度比+21%

主要顧客の投資動向

- ・メモリメーカー: 3D-NAND積極投資継続
- ・ロジック/ファウンドリ: 7nm量産立ち上げおよび5nm世代開発を推進
- ・中国: 外資・国内大手の投資継続

*1 WLP: Wafer Level Package

Hitachi HighTech

基本戦略と経営課題

グローバルトップ製品の創出と新領域への展開

新ニーズ対応 (新領域へ進出)

- ・オーバーレイ計測(SEM)
- ・パターン形状評価(SEM)
- ・MRAM*2対応加工装置

IoT市場展開 (製品ラインアップ拡充)

- ・小口径装置
- ・パワーデバイス向け装置
- ・WLP向け製品

基盤事業成長 (トップ製品提供)

- ・CD-SEM
- ・コンダクタエッチャ
- ・検査装置

サービス事業

- ・CIP*3メニュー拡大
- ・ビッグデータ活用ソリューション提供

基盤事業の継続的成長

- ・アーリーコラボレーションによる顧客密着型開発
- ・新たなニーズに対応する製品・ソリューションの提供
- ・開発加速に向けた国内外開発拠点の強化
- ・サービス事業の拡大

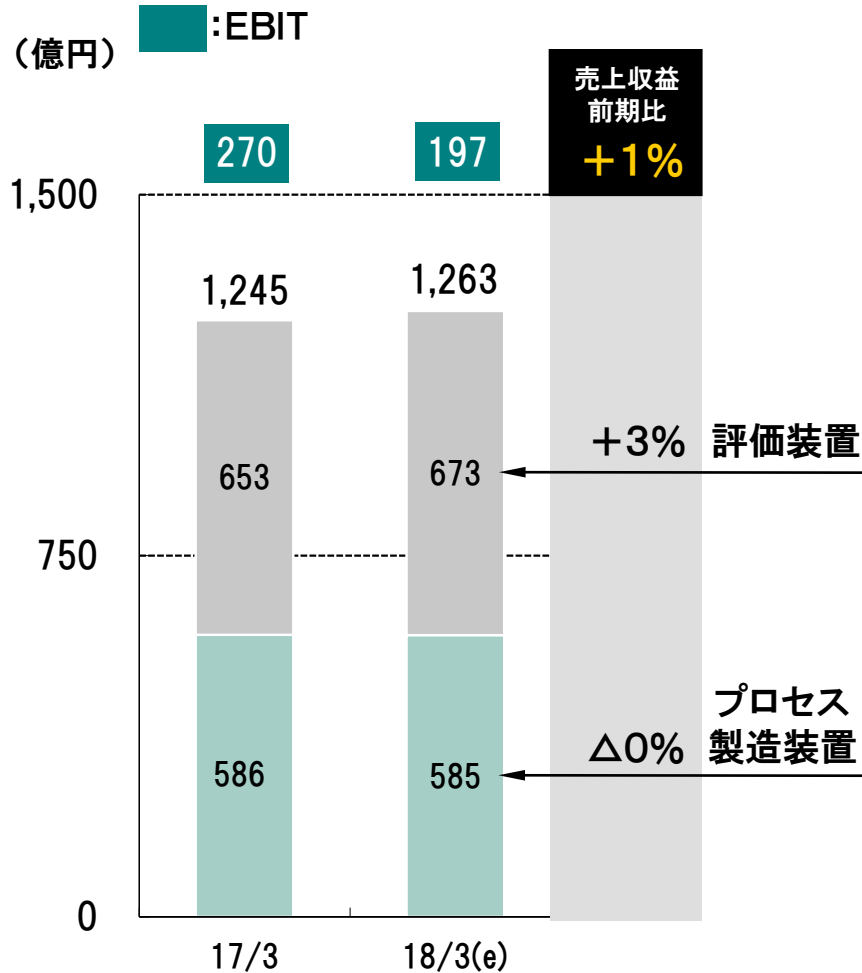
IoT市場への展開

- ・製品ラインアップの拡充

*2 MRAM: Magnetoresistive Random Access Memory

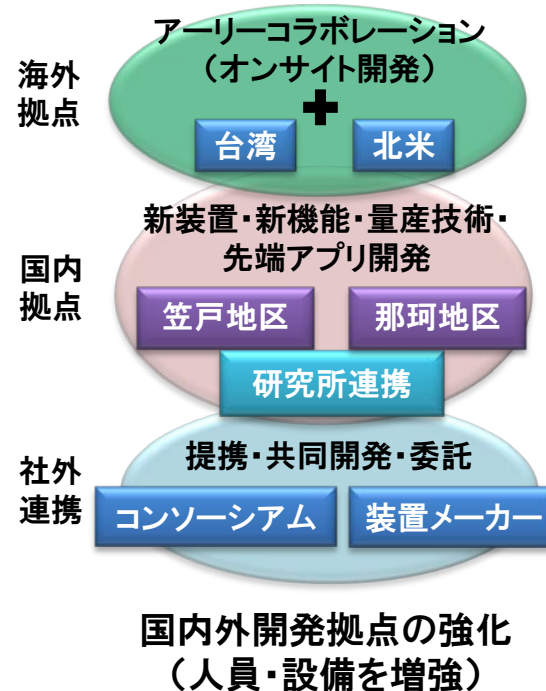
*3 CIP: Continued Improvement Plan

売上収益・EBITの推移



2017年度の具体的な取り組み

- 製品ポートフォリオ拡充にむけ
研究開発投資を増強 (前年度比+20億円)
- ・国内外各開発拠点の人員、設備を強化
- ・研究所含む社外連携強化



新ニーズ対応新機種



IoT市場向け新機種



事業ビジョン

産業分野のオンリーワン・ソリューションプロバイダーになる

市場環境

社会インフラ

- ・計装システム
IoTとビッグデータ解析による「高度運転支援」ニーズが拡大
- ・鉄道検測：市場規模が安定的に拡大
【市場成長率】7%（2016～2018年CAGR）

産業インフラ

- ・自動車部品組立：「環境」「安全・安心」関連への投資拡大
- ・LiB*1製造装置：欧米・中国での環境規制強化によりEV*2・PHV*3の開発加速
【EV/PHV市場成長率】47%（2016～2020年CAGR）
- ・フレキシブルデバイス：スマートフォン等の需要増により市場拡大
【市場成長率】46%（2016～2020年CAGR）

ICTソリューション

- ・IoT：製造現場のスマートファクトリー化加速
【市場成長率】15%（2016～2020年CAGR）

*1 LiB:リチウムイオン電池 *2 EV:電気自動車
*3 PHV:プラグインハイブリット自動車
*4 EPC:Engineering, Procurement and Constructions

基本戦略と経営課題

- 社会・産業分野へ最適ソリューションを提供
- パートナーとの協創による事業拡大

社会
インフラ

IoT技術融合による
計装・鉄道検測システムの提供

産業
インフラ

先端分野のモノづくりへ
次世代生産システムの提供

- ・エンジニアリング力の強化
- ・ワールドワイドで培ったソーシング力の活用

社会インフラ

計装

- ・クラウドサービスやプロダクト/ソリューション販売を融合した計装事業領域の拡大

鉄道検測

- ・鉄道検測事業拡大と鉄道分野の新事業創生

エネルギー

- ・太陽光EPC*4、キューバ向け電力事業

産業インフラ

自動組立

- ・自動車部品・LiB製造メーカーの活発な設備投資に対応した確実な受注取り込み

薄膜

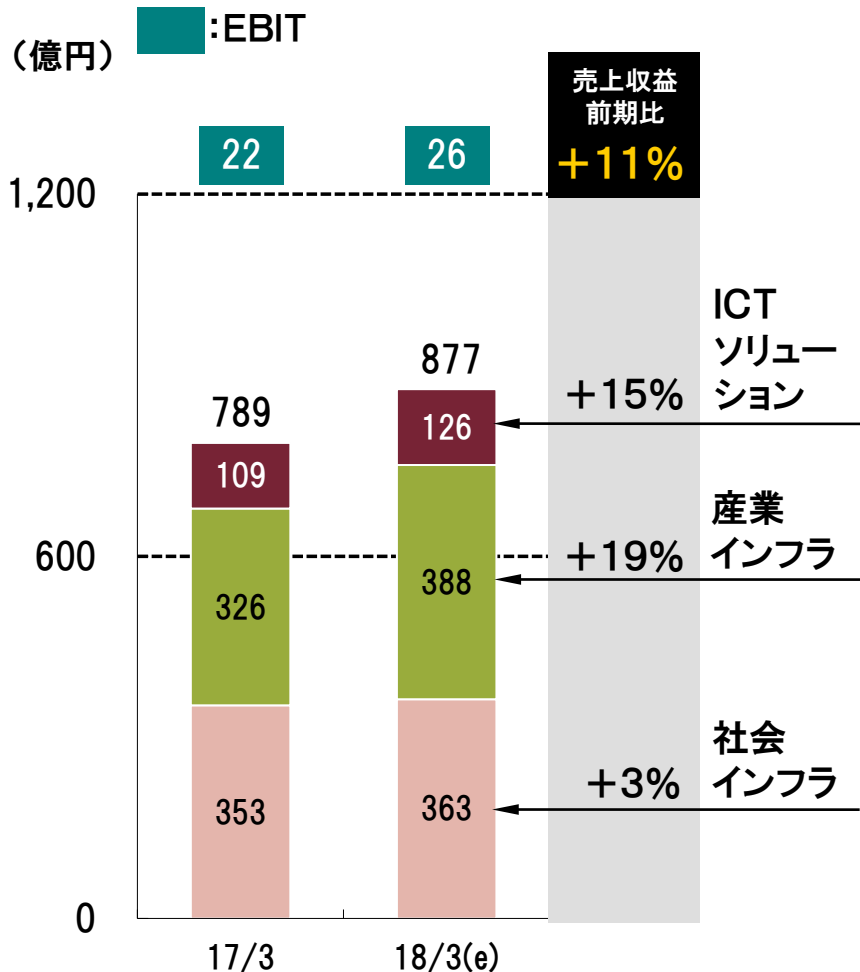
- ・急成長するフレキシブルデバイス市場における薄膜装置事業の立ち上げ

ICTソリューション

IoT

- ・モノづくり企業の生産効率向上や事業変革に向けたソリューションの提供

売上収益・EBITの推移



* 2018年3月期より事業区分の変更に伴い「産業システム」に含まれていた一部製品を「先端産業部材」に移管しております。2017年3月期はリスタート後の数値となります。
* リスタート前の実績値はP34をご参照ください。

2017年度の具体的な取り組み

社会インフラ

- 計装**
 - 「高度運転支援」ニーズに対応する計装制御とビッグデータ解析(予兆診断システム BD-CUBE等)の強化
- 鉄道検測**
 - 営業車搭載鉄道検測装置の拡販
 - ソリューションビジネスの展開によるスマートメンテナンスの提案
- エネルギー**
 - キューバ向け電力近代化プロジェクトの推進

産業インフラ

- 自動組立**
 - 自動車部品・LiB製造装置のハイエンド商材拡充と大手顧客深耕
- 薄膜**
 - パートナー企業との連携強化による薄膜装置事業の開発促進

ICTソリューション

- IoT**
 - 生産現場の生産性・品質向上ソリューションの提供



事業ビジョン 製造業向けFVC*1を商材としたビジネスオーガナイザーをめざす

市場環境

自動車市場

- ・2017年は前年比+1.2%の成長(W/W販売台数)
中国:横ばい 米国:微減
日本・ブラジル・アセアン:堅調

素材市場

- ・国産ナフサ、原油市場はゆるやかに回復傾向
- ・鉄鋼・非鉄金属市場は上昇傾向

エレクトロニクス市場

- ・車載用半導体部品需要は堅調に推移
【市場成長率】5%超 (2015~2020年CAGR)
- ・EV普及に伴い車載用LiB需要が増加

光通信市場

- ・市場全体は好調に推移するも中国・台湾メーカーが台頭
- ・100ギガバイトの光トランシーバーが急拡大
【100ギガバイト光トランシーバー市場成長率】
2017年: +34% (前年比)

*1 FVC: Full Value Chain

*2 BPO: Business Process Outsourcing

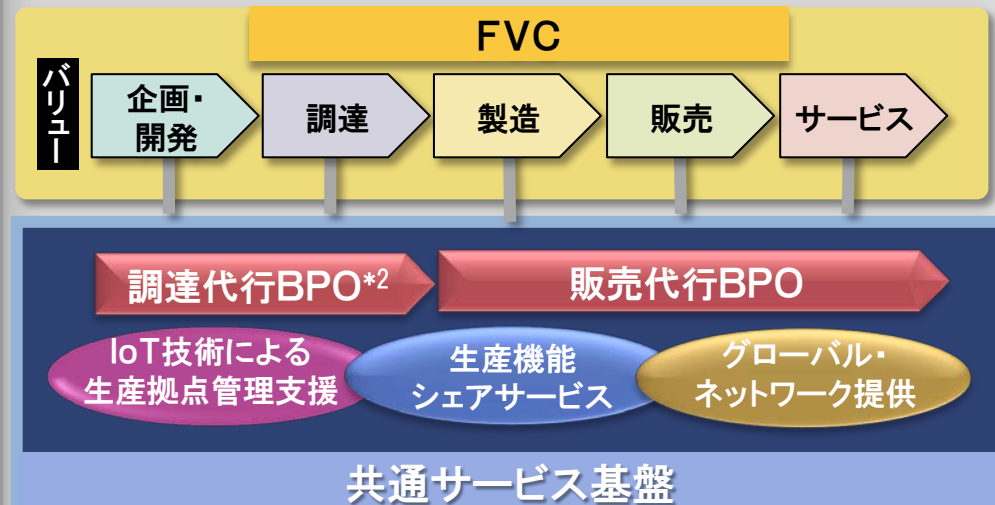
基本戦略と経営課題

積極的投資とFVCモデル構築の推進

投資による新規事業の立ち上げ

- ・FVCモデル構築、戦略パートナーとの提携を目的とした投資事業の推進

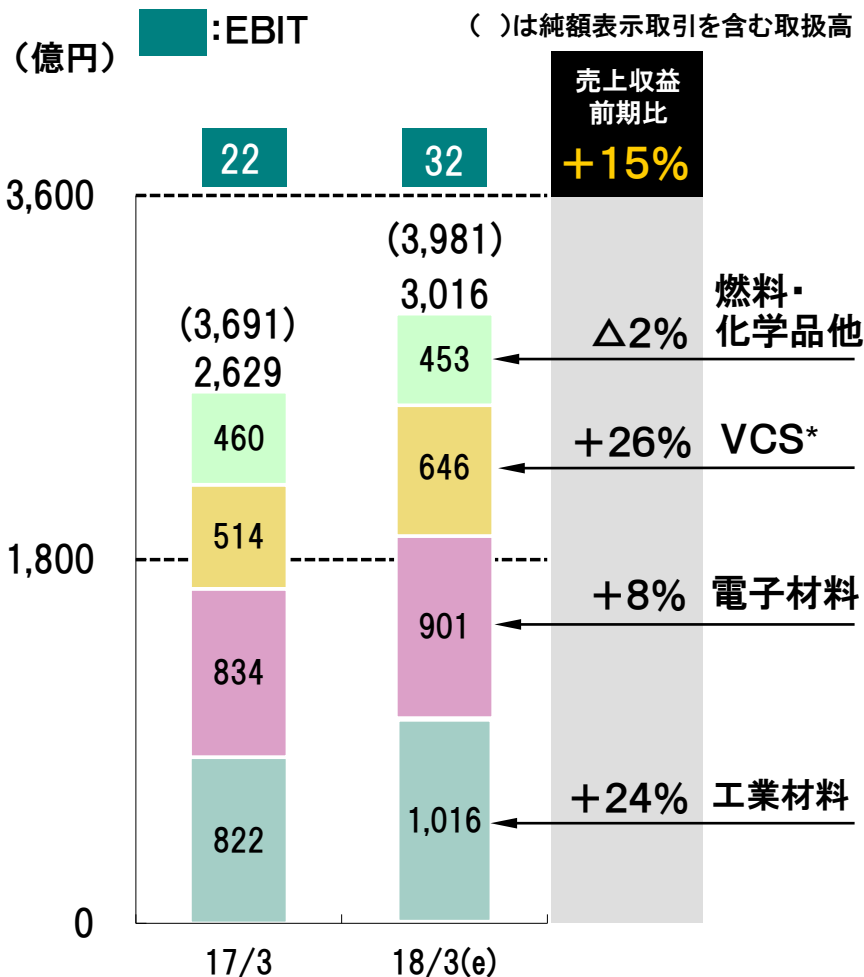
FVCを支える共通サービス基盤の確立



- ・事業モデルによって異なるFVCのバリューに対し、共通して提供できるサービスとしてBPOなどの支援機能を拡充

▶▶▶ FVCモデル構築を加速し、事業拡大を推進

売上収益・EBITの推移



*2018年3月期より事業区分の変更に伴い「産業システム」に含まれていた一部製品を「先端産業部材」に移管しております。2017年3月期はリステート後の数値となります。
*リステート前の実績値はP34をご参照ください。

2017年度の具体的な取り組み

積極的投資とFVC事業の拡張

■ 「シェア工場」の立ち上げ

- ・タイにおける「シェア工場」設立を推進
- ・IoT技術の活用による生産管理、設備共有化、在庫管理などにより日本の中小企業の海外進出を支援



アマタ工業団地
(シェア工場候補地)

■ 光通信モジュールEMSビジネスの拡大

- ・旺盛な需要に対応した生産設備の追加投資

■ 鉄道分野におけるグローバルFVCサービス提供

- ・海外パートナー企業との提携

■ 南米市場の開発

- ・ブラジル金型鋼販売会社の買収(2016年10月)、Hitachi High-Tech Steel do Brasil Ltda設立
⇒営業基盤強化、周辺事業への展開を加速

■ 金型管理ビジネス立上げ

- ・下請法改正に対応したサービス事業の開始

* VCS: Value Chain Solution

次世代の成長サイクル形成に向け、 リソース増強とインオーガニック成長への戦略投資を実行

		17/3 実績	18/3 予想(e)	
収益性	Instruments	EBITマージン率10%以上を維持	13%	11%
	Materials	EBIT絶対額50億円以上を実現 (2018年度)	23億円	32億円
サービス 比率	EBITに占めるサービス事業の割合 50%以上を維持		57%	61%
研究 開発	800億円* バイオ・メディカル事業を中心に増額		236億円	278億円
設備 投資	400億円* ●事業を支える製造能力の拡充と 生産技術力の強化 ●デモ設備等の拡張による顧客との コラボレーションの深化		144億円	205億円
株主 還元	配当性向30%をめざし、安定配当を維持		27.4%	29.5%

*2016～2018年度累計投資規模

6. 補足資料

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。
(e)は、今回予想(2017年4月公表値)

2018年3月期業績予想(セグメント別)

(億円)	18/3 予想(e)		17/3 実績		前期比	
	売上 収益	EBIT	売上 収益	EBIT	売上 収益	EBIT
科学・医用 システム	1,905	253	1,861	271	+2%	△18
電子デバイス システム	1,263	197	1,245	270	+1%	△74
産業 システム	877	26	789	22	+11%	+4
先端産業 部材	3,016	32	2,629	22	+15%	+10
全社合計	6,800	460	6,445	536	+6%	△76

* 全社合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれています。

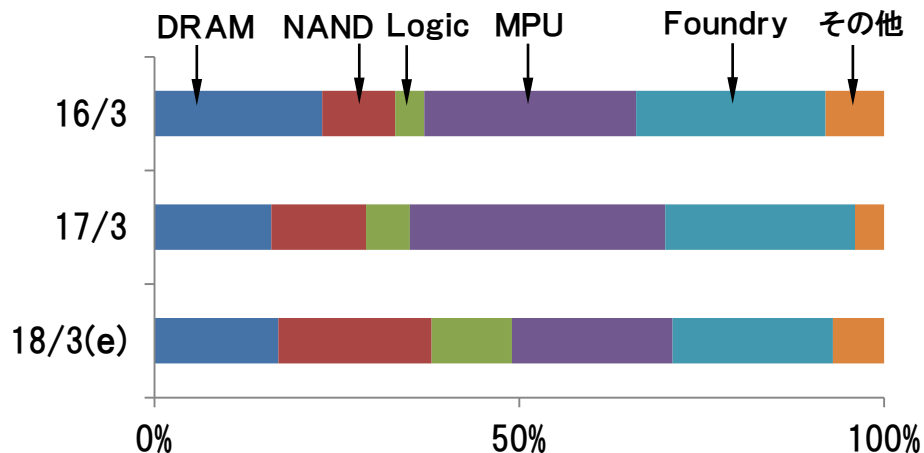
* 2018年3月期より事業区分の変更に伴い「産業システム」に含まれていた一部製品を「先端産業部材」に移管しております。
2017年3月期はリステート後の数値となります。

受注高推移

	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	(億円)
16/3 実績	226	230	302	424	1,182	
17/3 実績・予想(前回)	334	309	256	233	1,133	
17/3 実績	334	309	256	371	1,271	
18/3 予想(今回)(e)	583		642		1,225	

:実績
 :前回予想
 :今回予想

前工程装置 分野別売上収益比率



* 装置本体売上ベース

■設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	16/3	17/3	前期比	18/3(e)	前期比
設備投資額	120	144	+19%	205	+42%
減価償却費	105	105	△0%	131	+24%
研究開発費	202	236	+17%	278	+18%

(注)設備投資額は取得ベースにて記載

■地域別売上収益

(億円)

		日本	北米	欧州	アジア	中国大陸	その他	計
16/3	売上収益	2,557	592	883	2,189	882	68	6,290
	構成比率	41%	9%	14%	35%	14%	1%	100%
17/3	売上収益	2,498	546	878	2,274	841	249	6,445
	構成比率	39%	8%	14%	35%	13%	4%	100%

(億円)			16年 1Q	16年 2Q	16年 3Q	16年 4Q	
売上収益 ／ EBIT	科学・医用システム	売上収益	458	468	422	513	
		EBIT	92	53	72	53	
	電子デバイスシステム	売上収益	279	293	347	326	
		EBIT	78	58	91	44	
	産業システム	売上収益	184	228	184	320	
		EBIT	△6	5	△1	24	
	先端産業部材	売上収益	599	587	641	675	
		EBIT	5	4	8	6	
	その他・調整額	売上収益	△24	△24	△14	△17	
		EBIT	△5	△11	△4	△30	
	合計		売上収益	1,496	1,552	1,581	1,816
			EBIT	164	109	166	98
	税引前利益			165	110	166	99
	親会社株主に帰属する当期利益			129	80	124	69

主要製品群別売上収益の状況

(億円)	16年1Q	16年2Q	16年3Q	16年4Q	17/3
科学・医用システム	458	468	422	513	1,861
電子顕微鏡	50	88	68	94	300
科学機器	42	65	51	76	234
メディカル製品	333	280	257	300	1,170
バイオ製品その他	32	34	47	44	157
電子デバイスシステム	279	293	347	326	1,245
プロセス製造装置	146	139	165	136	586
評価装置	131	152	181	189	653
その他	1	2	1	1	5
産業システム	184	228	184	320	916
社会インフラ	76	78	77	123	353
産業インフラ	53	91	52	130	326
ICTソリューション	55	60	55	67	237
先端産業部材	599	587	641	675	2,502
工業材料	255	252	273	299	1,078
電子材料	193	188	203	210	795
VCS*	151	147	165	165	629

* VCS: Value Chain Solution

2017年3月期決算(IFRS)説明会資料

—中期経営戦略進捗状況/2018年3月期業績予想—

お問合せ先
CSR本部 本部長付 横井 芳人
TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-5943
E-mail: yoshito.yokoi.jp@hitachi-hightech.com

<資料取り扱い上の注意>

- ・本プレゼンテーションで述べられている決算概要および業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結であり、億円未満を四捨五入しています。
- ・当社が開示する情報のうち、今後の計画、見通し、戦略などの将来予想に関する情報は、開示時点で合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しており、リスクや不確実性を含んでおります。当社は、これらの情報を開示する場合には、将来予想に影響を与えると想定される要因を開示することとしています。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。